



IBJ*防除情報 第66号

(*Ishihara Bioscience Japan=石原バイオサイエンスの略)



いまどきの防除

(病害虫の発生予察と薬剤による防除対策)

●農水省は、7月26日に向こう1ヶ月の主要病害虫発生予報を発表しました。その中から主な作物を対象に、発生が「多い」と発表された病害虫とその地域及び防除農薬(弊社の推奨農薬)を一表に纏めましたので、推進のご参考にして下さい。(特記以外の使用方法は希釈液散布)

作物名	病害虫名	地域	防除農薬(当社推奨農薬)	
水稲	紋枯病	北陸、北九州	-	
	縞葉枯病	関東	-	
	いもち病	中国、四国、九州	トリフミン水和剤/乳剤	
	イネミズゾウムシ	北東北	石原MR, ジョーカー粉剤DL (成虫)	
	セジロウカ	東海、中国、九州	石原MR, ジョーカー粉剤DL	
	ツマグロヨコバイ	北陸	石原MR, ジョーカー粉剤DL	
	斑点米カメムシ類	東北、北陸、東海	石原MR, ジョーカー粉剤DL	
野菜	野菜共通	アブラムシ類	南関東、中国	ウララDF*, テルスター水和剤*/フロアブル*
		アザミウマ類	南東北、東海	ウララDF* (ネ)、テルスター水和剤*/フロアブル*、アタブロン乳剤* ガゼット粒剤 (ミカン)
		ハスモンヨトウ	関東	アクセルフロアブル*、アタブロン乳剤*、トアロー水和剤CT*
	いちご	ハダニ類	九州	ネマトリンエース粒剤【定植前全面土壌混和】
	きゅうり	べと病	北東北、北陸	ランマンフロアブル、ドーシャスフロアブル
	ねぎ	さび病	南関東、北陸	カリグリーン
		ネギアザミウマ	関東、北陸	ウララDF、アタブロン乳剤
	きく	白さび病	東海、南九州	トリフミン水和剤/乳剤
アザミウマ類		南東北	アタブロン乳剤 (ミナミ)、ガゼット粒剤 (ミカン)、テルスターフロアブル (ミカン)	
果樹	果樹共通	シンクイムシ類	北陸、東海	テルスター水和剤*/フロアブル*
	かんきつ	かいよう病	九州	-
		黒点病	東海、北九州	フロンサイドSC/水和剤
	なし	黒星病	東北、東海、九州	フロンサイドSC/水和剤、トリフミン水和剤
		ハマキムシ類	東海	アタブロンSC、テルスター水和剤/フロアブル
もも	せん孔細菌病	南東北、北陸、東海、中国	-	
茶	炭そ病	東海、九州	フロンサイドSC/水和剤、トリフミン水和剤	
	チャノコカクモンハマキ	南関東、近畿	テルスター水和剤/フロアブル、トアロー水和剤CT、アタブロン乳剤	
	チャノホソガ	南関東	テルスター水和剤/フロアブル	
	チャハマキ	東海	テルスター水和剤/フロアブル、アタブロン乳剤	

(ネ) : ネギアザミウマ / (ミナミ) : ミナキイロアザミウマ / (ミカン) : ミカンキイロアザミウマ、

*野菜共通・果樹共通でのウララDF、テルスター水和剤/フロアブルは、登録作物・害虫種を確認して御使用下さい。

注) 表中の地域については、その地域全域で発生がみられるものではありません。

ご説明
します

今月の特集

今月号は、晩夏から秋期にかけて問題となる「軟腐病」と「尻腐病」についてご紹介します。



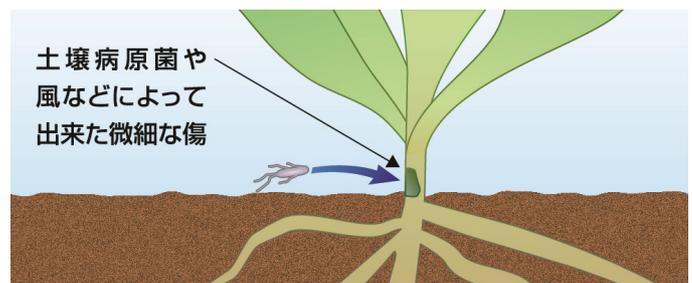
軟腐病、尻腐病

はくさい/レタスの 軟腐病

軟腐病とは

軟腐病は、エルビニア カロトボラという細菌によって引き起こされます。本菌は畑はもちろんのこと、山地や水田土壌と幅広く生存し、生存温度は、5～35℃前後で28～30℃で活発に活動します。病徴は、株元や地際に接した外葉より水浸状の斑点ができ、急速に軟化・腐敗し独特の腐敗臭を放ちます。

■ 軟腐病の発病メカニズム



軟腐病は、自ら植物に侵入することが出来ないため、植物体に出来た微細な傷(土壌病原菌などによって出来た傷、風・雨など物理的な障害を受けた傷)から侵入し、感染します。



はくさい軟腐病



レタス 軟腐病

はくさいの 尻腐病

尻腐病とは

尻腐病は、リゾクトニア ソラニ(AG2-1)という糸状菌によって引き起こされます。本菌の生育条件は広く土壌温度11～30℃、土壌湿度25～90%で活発に活動します。また、菌糸や菌核で土壌中に残存し、おおよそ12～21ヶ月間生存するといわれています。病徴は、株元や地際に接した外葉が軟化・腐敗し、病気が進むと腐敗が結球部まで広がり、主に収穫期になって発病するため非常にやっかいな病気です。軟腐病とは違い、腐敗臭がないのが特徴です。



はくさい尻腐病

軟腐病、尻腐病に既存の薬剤とは異なる作用で高い防除効果

適用
拡大

フロンサイドSCの全面土壌散布



フロンサイド[®]SC
(フロアブル)

■ 防除が困難な軟腐病に対して優れた防除効果を発揮します。

本剤処理区では軟腐病の感染を抑え、優れた防除効果を発揮することが示されました。

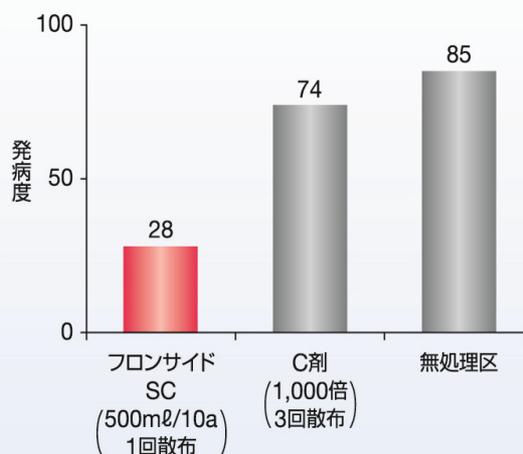
フロンサイドSC
処理区



無処理区



全面土壌散布による軟腐病の防除効果



- 試験場所: 滋賀県草津市 ●試験条件: 露地栽培 ●病害発生条件: 甚発生 ●作物(品種): はくさい(無双)
- 薬剤処理: 本剤は定植前に薬量500mℓ/10a、散布水量150ℓ/10を全面土壌散布、C剤は9日間隔で3回茎葉散布
- 調査: 薬剤処理51日後に発病程度を調査

全面土壌
散布の
病害防除
メカニズム

■ 幼苗期に土壌由来の病原菌の感染を防ぎます。

フロンサイドSCを土壌表面に処理することで、リゾクトニア病菌などによってできる傷を防ぎ、軟腐病菌の侵入経路を絶つことで予防効果を発揮します。



■ 適用作物と使用方法(一部抜粋)

本内容は、平成27年11月25日付の登録内容に基づいています。

作物名	適用病害名	10アール当たり使用量		使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルアジナムを含む農薬の総使用回数
		薬量	希釈水量				
はくさい	尻腐病 軟腐病	500mℓ	100~ 200ℓ	定植前	1回	全面土壌 散布	2回以内 (土壌混和は1回以内、 土壌散布は1回以内)
レタス	軟腐病						

フロンサイドSCの全面土壌散布の上手な使い方

全面土壌散布の処理方法

畦たて



畦立て同時マルチの場合はマルチングも実施

マルチ穴あけ



マルチ穴あけ後の本剤表面処理をおすすめしますが、穴あけ前の処理でも可能です。

フロンサイドの土壌散布



10アールあたり、本剤500mℓを水100~200ℓに希釈し、散布

定植

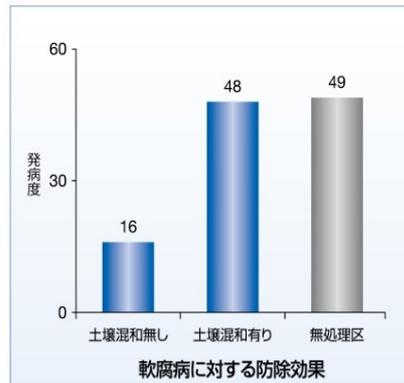


混和はせず、そのままセル苗を定植

全面土壌散布処理のポイント

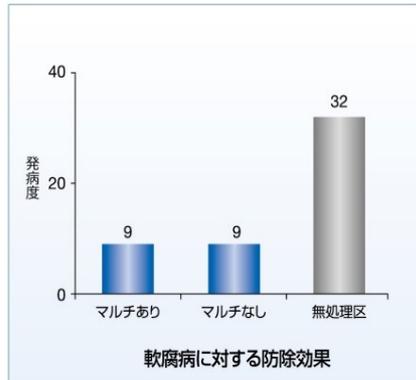
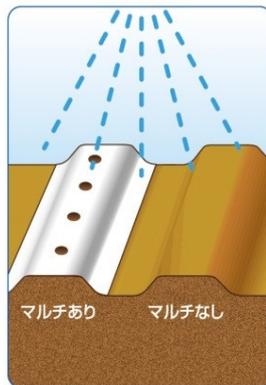
■ 畦立て作業後に本剤を均一に散布してください。

散布後に混和しない(軟腐病)。



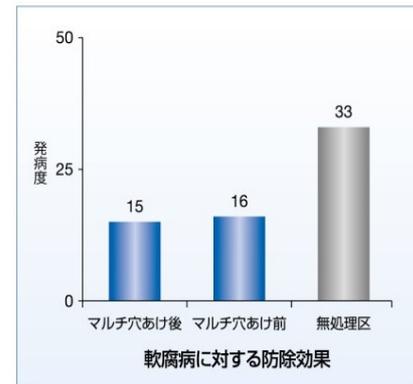
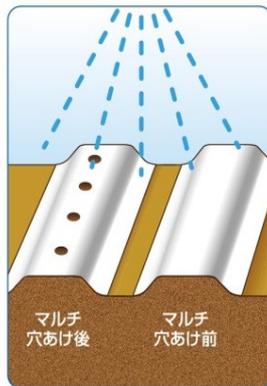
土壌混和を行った場合、軟腐病に対する効果が認められませんでした。

■ マルチの上からの処理でも安定した効果を発揮します。



マルチをした条件と、しない条件でも防除効果に差がありませんでした。

■ マルチ穴あけ前の処理でも効果が期待できます。



マルチ穴あけ前でも、マルチ穴あけ後でも防除効果には差がありませんでした。

全面土壌散布（表面散布）時の留意点

- 均一に散布する。(薬害・効果不足)
- 周辺(隣接)へのドリフトに注意する。(作物の生育ステージにも注意する)
- 処理後、強い降雨があった場合、生育抑制が出る場合があるので、注意する。
- 除草剤との混用は、行わない。
- 表面散布時は処理後の土壌混和を行わないため、根こぶ病への効果は期待できないので、注意する。
- 定植作業時に手袋などを着用し、成分に直接触れないように注意する。(かぶれ)

石原の農薬登録情報



- 2016年7月11日～8月10日までの間に登録された弊社の新農薬（適用拡大を含む）は、ございません。引き続き、弊社製品に御愛顧を賜りたく、宜しく御願い致します。

弊社では、圃場の土壌を御送付頂き、その土壌中のセンチュウ量を測定、報告し、防除計画の御参考にして頂く無料サービスを継続実施しております。



ISK 石原バイオサイエンス株式会社 本社 開発普及部
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号
TEL 03-5844-6320 FAX03-3812-6548
ホームページ アドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>

センチュウ検定
無料キャンペーン
実施中